

～国の重要無形民俗文化財～

秋名のアラセツ行事(シヨチガマ・平瀬マンカイ)

たまぬ石登てい何の祝取りゆり
西東稲霊招き寄すろ

秋名親祝女ぬ百草取り寄せてい

鳥ぬあるなげ祝ておしよろ

朝潮満ちあがりや シヨチヨガマのお祝べ

夕潮満ちあがりや 平瀬お祝べ

今年世ぬ変わていおとまらしゃへんでい

いしよぬあやそびぬあげは登てい

今年ある年や豊ほ年どありようる

来年の稲がなし畦枕



秋名アラセツ行事について

1 秋名アラセツ行事について

(1) アラセツ行事とは

明け方に行われる『ショチョガマ祭り』と夕方『平瀬マンカイ』の2つの祭りのことをさします。



(ショチョガマ)



(平瀬マンカイ)

(2) 祭りの歴史

祭りは那覇世(13~17世紀)の時代、奄美群島が首里王府の統治下にあった頃から行われていたといわれます。

戦中戦後に途絶えていたのを昭和35年、秋名・幾里青壮年・婦人会が中心となって、秋名小学校後援のもと、秋名平瀬マンカイ保存会が設立されました(初代会長故窪田正徳氏)。



昭和46年 村(町)の無形民俗文化財に指定

昭和57年 県の無形民俗文化財に指定

昭和60年 国の重要無形民俗文化財に指定

- アラセツ 旧暦8月最初の丙(ひのえ)日を祭りとする。
アラセツ(新節)は火の神を祀り、火事がないように祈願する。
- シバサシ アラセツから7日目の壬(みずのえ)日を祭りとする。
シバサシは畑の神の祀りで、家の屋根・高倉・屋敷・田畑に柴(トウズキ)を立てて悪神をはらう土の神の祭り。
- ドウंगा シバサシ行事の後、最初の甲子(きのえね)日を祭りとする。
先祖祭またはねずみの祭りとも言われている。

以上が三八月(ミハチガツ)と呼ばれる。ショチョガマ・平瀬マンカイはアラセツに行われる。

2 ショチョガマについて



ショチョガマは秋名田袋を見下ろす山の中腹に建てた片屋根のことです。午前5時頃にショチョガマの上で太鼓を打ち鳴らし祭りを呼びかけます。また1年間に生まれた男の子を、ショチョガマの上に乗せて健康祈願をします。

日の出の前にショチョガマの前方左右に置かれたワラ枕の祭壇に、カシキ(赤飯)、焼酎、ミキの順に供え、神役のグージが祭詞をととなえ豊作祈願をします。ショチョガマの唄一節が終わると、ショチョガマの上の男衆や子どもたちが「ユラ・メラ」と掛け声をかけ左右に屋根を揺らし、午前6時30分頃、太陽が東の山の上に出る直前に揺すり倒します。その後、倒れた屋根の上で豊作を祈る八月踊りをし、ショチョガマの祭りが終わります。

3 平瀬マンカイについて



平瀬マンカイの祭りは午後4時頃、夕方の満潮に合わせて祭りを行います。ショチョガマが田や畑山の神々への豊作祈願であれば、平瀬マンカイは海の彼方(ネリヤ)の神々への祈願です。

神平瀬には5名のノロ役の女性が岩に登り、女童(メラベ)平瀬には男性3名(ノロの補佐役、シドワキ・ウッカム・グージ)・女性4名が岩に登ります。女童平瀬の女性は太鼓を打ち鳴らし、神平瀬と女童平瀬とで唄の掛け合いが行われ、海の彼方の神々への豊作祈願が行われます。それが終わると、神平瀬では合掌し祭詞をととなえ、ネリヤの神に対する礼拝で祭りを終了します。その後、浜に下りて八月踊りを行ないます。

● 交通アクセス

- ・名瀬新港～秋名集落(大熊経由)車で40分程度
- ・奄美空港～秋名集落 車で45分程度
- ・芦徳～秋名集落 車で30分程度 龍郷町役場～秋名集落 20分程度
- ・その他・・・雨天決行 駐車場は秋名漁港 他

